

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 20

学校名・団体名	横浜市立日枝小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	体験を通して生きて働く「知」を創造する学びを求めて
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>4年2組（総合 社会 図工） 端材を使って、それぞれの木の特徴を生かしたクラス札づくりを作る活動を通して、友達と協働することで、目的を達成する喜びをもち、寄木細工職人の思いやこだわりに触れ、木の特徴を生かすことの美しさやよさの追究を行った。クラス札を作る活動等を通して、職人の技や思いを知るとともに、たくさんの加工方法があることに気付いた。また、木を使ったものづくりには、伝統的な技法の魅力やその特徴、価値があり、工芸品に対する理解と愛着につながっていることに気づいた。</p> <p>活動の流れ</p> <ol style="list-style-type: none">1 どんな方法でクラス札を作るか、アイデアを出し合う活動を通して、木を使って表現する多くの方法を知る。2 クラス札をどのような方法で作るかを話し合う活動を通して、自分たちのめあてに向かってどの方法が一番あっているのかや実現可能なのかを考える。3 箱根物産連合会の方に来ていただき、話を聞くと共に寄せ木細工の体験を行う。4 クラス札に使う材料を集める活動を通して、自分たちの活動に協力してくれる人に気付く。5 クラス札づくりをする活動を通して、クラス札を作る上での課題点を見つける。6 成果と課題を出し合う活動を通して、自分たちの経験をもとに解決策を考えた。7 クラス札の仕上げをする活動を通して、自分たちが作り上げたものの成果や達成感を感じた。8 各クラスにクラス札を届ける方法について話し合う活動を通して、自分たちの思いがよりの確に伝わる方法を考えた。9 日枝っ子まつり（発表活動）の振り返りを通して、自分たちの成果に気付き、達成感を味わった。 <p>5年2組（総合 社会） 子どもたちに身近な米を実際に育て、せんべいを作ることを通して、米やせんべいを作る苦労や工夫、生産する喜びや生産者の思いを感じることができた。また、米作りもせんべい作りも全員が協力することが不可欠である。クラス一人ひとりの良さを再発見し、まちのせんべい屋のKさんの手焼きにこだわる思いに触れ、自分の生活や生き方を考えた。</p> <p>活動の流れ</p> <ol style="list-style-type: none">1 どこでお米が作れるのか調べる。2 発芽玄米から発芽させて、お米を育てる。3 苗をもらえないかお願いしてみよう。4 この後の世話はどうしたらいいのか調べ、成長を観察する。5 米農家のIさんに途中経過を報告し、助言をもらう。6 どうやっておせんべいを作るのか調べる。7 自分たちで実際に作って食べて、振り返る。8 まちのお店で焼き方を聞く。9 アドバイスをもとに、もう一度作って、振り返る。10 日枝っ子まつりの発表を通し、成果と課題を整理する。	

5年2組（総合 社会 道徳）

食品ロスの削減を呼び掛けていく活動を通して、現在まちや家庭で捨てられている食品の量や、それに対する取り組みをしている人たちの思いや願いを現場まで出かけて行き、知ったり触れたりする経験をした。その当たり前の環境を、見つめ直すことにより、実際に支援団体などに食料が行き渡りつながり合っていることを知り、自らの食生活について改めて見直せるようになってきた。地球規模の問題に対しても、自分たちの生活にも関係があり、できることから取り組む態度を育んだ。

活動の流れ

- 1 食べ残しや廃棄されてしまう食品の行方について調べ、食品ロスの現状に気づく。
- 2 自分の家や日枝のまちの食品ロスや取組を調べる。
- 3 フードリンク活動について調べ、フードリンク in 日枝小を実施する。
- 4 食品ロスの現状を見学に行く。野菜の捨ててしまう部分から堆肥を作り、エコ野菜を育てる活動を行う。また、「育てる～調理～食べる～堆肥」の循環について考える。
- 5 食品リサイクル工場を見学し、Kさんの話を聞き、理解を深める。
- 6 国際連合食糧農業機関（FAO）のポリコ所長に来ていただき世界の現状について話を聞く。
- 7 日枝っ子まつりで、自分にもできることや地球規模の問題であるが、自分の生活にも関係が深いことを、地域や保護者に伝える。

6年1組（総合 音楽）

お囃子は、祭りの時に演奏され、地域ごとに伝承されているものが多い。日枝のまちにも、過去にはお囃子があったが、衰退してしまった。しかし、まちにはお囃子に強い思いを抱く方も多い。子どもたちは地域の人のお話を聞くことによって、お囃子をしてみたいという思いをもった。活動が深まり、お囃子をただ演奏するのではなく、聴く人も一緒に楽しめるような工夫を子どもたちが自発的に行った。さらに、お囃子をまちに残したいという願いから、日枝のまちの一員としてまちに貢献したいという思いを形にしていっていった。

- 1 まちの人はお囃子を楽しみにしている実態を知り、行事に参加したり一緒に楽しんだりしてまちの人と関わりたいという思いをもつと共に、お囃子の楽しさを多くの人に知ってもらい残していきたいという思いをもった。
- 2 関わっていく計画を立て、自分たちやまちの人が聴くだけでなく、共に楽しめる方法を考える。
- 3 例大祭や光のぷろむななどに参加し、まちのひとと楽しむ。
- 4 さらに活動を広めるために、老人ホームや幼稚園に行き、お囃子を披露する。
- 5 感想や、課題を聞き改善点を考え、繰り返し関わる。
- 6 お囃子を残すために、町会長さんをはじめ多くの人々の意見を聞きながら、地域クラブを立ち上げる。

6年2組（総合 国語）

写真には、「撮る」楽しさと「撮られる」楽しさがある。スマートフォンの普及により、写真は子どもたちにとって身近なものとなった。ただし、意図のない写真からは何も伝わらない。その場に行き、その場の空気を感じ、また、まちに住む人と触れ合う中で撮る写真。そこに子どもたちは日枝のまちの良さを感じるだろう。

活動を通して、子どもたちはまちの魅力に気付いたり、その魅力を伝えていくための方法を考えたりした。一枚の写真を通して、何を伝えるのかをじっくり考え、日常の風景を見つめ直すことで、そこにあるモノや人の魅力を再認識し、まち（ひと もの こと）に対する愛着を深めていった。

活動の流れ

- 1 まちの魅力を探し、外部の人と一緒にまちたんけんをする中で、撮ってきた写真をクラスで共有する。
- 2 「横浜 人・モノ デザイン賞」に応募に向けて、計画を立てる。
- 3 カメラマン K さんに写真の撮り方を教わる。
- 4 撮った写真の中から応募する作品を選定し、「横浜 人・モノ デザイン賞」に応募する。
- 5 写真灯籠をつくり、南祭りで展示する。
- 6 撮った写真を使ってまちの魅力マップを作り、まちの情報誌でまちの魅力を宣伝する。
- 7 これまでに調べたことを基にしながらコメントをつけ、日枝のまち写真集を作る。
- 8 日枝っ子まつりで展示するとともに、これまでの活動を振り返る。